
短編「おばかさんとハサミ」

鳥海ドゥンガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編「おばかさんとハサミ」

【Nコード】

N1143K

【作者名】

鳥海ドウンガ

【あらすじ】

健作の子分の文太は、何をやってもダメなやつ！

その文太が珍しく大活躍！？

健作と文太が仲良くなったのは、二人が小学五年生の時でした。

文太がクラスの男子生徒たちにいじめられていたところを健作が通りかかり、助けたのがきっかけでした。

文太は何をやらせてもからっきしダメな子で、テストも0点ばかりでした。テスト用紙に名前を書くのを忘れて0点扱いになるのもしょっちゅうだし、名前が書けていても肝心の答えが全て間違っているので結局は0点というのもしょっちゅうでした。勉強以外の他すべてにおいても鈍くさく、クラスのお荷物としていつも馬鹿にされてきました。

一方、健作はというと、やはり勉強が苦手で、そのうえ大口たたきのカツコつけ男だったので、学校中から嫌われていました。

いじめられていた文太を助けたのも、多勢に無勢の弱いものいじめはゆるさん！というような正義感からではなくて、ただ、いいカツコがしたかっただけでした。

それでも、助けられた文太にしてみれば健作はヒーローでした。

この日以来、文太は健作の子分になることに決め、健作のことを「おやぶん」と呼ぶようになったのでした。

何をやらせてもからっきしダメな文太は、子分としてはもう最低でした。

「おやぶん、何かお役に立てることはないっすか？」と言うので、健作が雑用を言いつけると、大体しようもない理由でドジるのです。失敗して健作にこっぴどく怒られてへこみ、次の日になるとけろっとしてまた「おやぶん、何かお役に立てることはないっすか？」と来る。そしてまたしようもなくドジる。

そんな毎日を繰り返しながら二人は中学校に進み、同じ高校にも進み、そしてこの春、高校を卒業したのでした。

高校卒業後、就職も進学もしなかった二人は毎日をブラブラと過ご

していました。

ある夏の日の昼下がり、健作は大慌てで出かける支度をしていました。急遽、就職の面接へ行くことになったのです。

毎日のように親から就職しろと言われ、その日も朝からうるさく言われていい加減うんざりだった健作は、求人を見て適当に電話をしたのでした。そうしたら、すぐに面接をされると言われ、大慌てで準備をすることになったのです。人生初の就職面接です。

健作は自分のスーツを持っていないので、父親のスーツを引っ張り出してきました。

着替え始めてすぐに重大なことに気がつきました。

ネクタイの結び方を知らないのです。

親は二人とも仕事なのでいません。

想像力を駆使して自分で結んでみましたが、何度やってもちょうちよ結びになつてしまいます。

「ぐわあー！ 全然だめだー！」

時間の余裕がありません。

健作が焦りと怒りでネクタイを床にバシバシ叩きつけていると、ピンポンと呼び鈴が鳴りました。

このクソ急いでる時に誰だよ、と思いました。が、セールスマンや宅急便の人などの社会人だった場合、もしかしたらネクタイの結び方を教えてもらえるかもしれないと考え、大急ぎで玄関に向かいました。

ドアを開けると文太がいました。

「文太かよ！」

「チワツス！ おやぶん、ヒマだからオセロでもしましよーよ」

「うっせえ！ このクソ急いでる時にオセロなんかやるかっ！ 帰れー！」

健作は、腹の底から込み上げてきた怒りにまかせてドアを力いっぱい閉めました。

「そ、そんなに怒んなくてもいいのに・・・」

文太が立ち去ろうとすると再びドアが開きました。

「おい文太、まさかとは思うけど、お前、ネクタイの結び方なんか知らないよな？」

「ネクタイ？できるっすよ？」

文太の両親は、文太が大人になってから困らないようにと、小さな時からネクタイの結び方だけはキチンと教えていました。

文太はチョチョイのチョイと健作の首もとにネクタイを結びました。

「おお！できてる！すげえぞ文太！ナイスプレーだ！お前、子分として初めて大きな仕事したぞ！」

「えへへ、まかしてくれっす！ それにしてもおやぶん、スーツなんか着ていっただいどうしたんすか？」

「就職の面接だ」

「え！おやぶん就職するんすか？ この前、会社作って社長になるって言ってたじゃないっすか！」

「社長は後だ。今は親が就職しろってうるせえから就職する。おつと！こうしちやいらねえ、もう行かねえと！」

「履歴書は書いたっすか？」

「りれきしょ・・・？ 履歴書！どわー！ 書いてねえ！」

「えっ！書かないとまずいっすよ！」

「履歴書なんか持ってねえよ！ 買いに行ってる時間もねえ！」

「おいら、前にバイトの面接で使った履歴書の残りが家にあるっす！ 急いで取ってくるっすよ！ 買いに行くより絶対に早いっす！

待っててくれっす！」

文太はすっ飛んで家に帰り、履歴書を持ってまたすっ飛んで健作の家へ行きました。

「おやぶん、履歴書っす！」

「でかした文太！ またもナイスプレーだ！ 今日のお前は神がかり的に冴えてるな！」

「ウツス！今日は調子がいいっす！」

文太のナイスプレーはまだまだ止まりませんでした。

履歴書の書き方が解らないという健作に書き方の指導をし、写真欄に七五三の時の写真を貼ろうとする健作に待ったをかけて証明写真を貼るのだと教え、証明写真を撮るマシーンは駅前にあるということも教え、写真を撮るのにお金が足りなかった健作に小銭を貸し、顔写真が四枚つながって出てきたので、手でちぎって貼ろうとして失敗して、残り一枚になってしまった健作に、大急ぎでハサミを買ってきました。まさに大車輪の活躍でした。

「おやぶん、ハサミっす！ 貼るためのりも買ってきたっす！」

「サンキュー文太！今日のお前はとてつもなく頼もしいな！ 今までのへボいお前がウソのようだぜ！」

「今までのおいらは仮の姿っす！ 本当はこれくらい余裕でできるっす！」

健作がハサミをパッケージから取り出し、証明写真を切っていくと切った写真のふちがきれいにギザギザになりました。

パッケージには『かわいく切れるよ！ギザギザはさみ！』と書いてありました。

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1143k/>

短編「おばかさんとハサミ」

2010年10月28日04時21分発行